

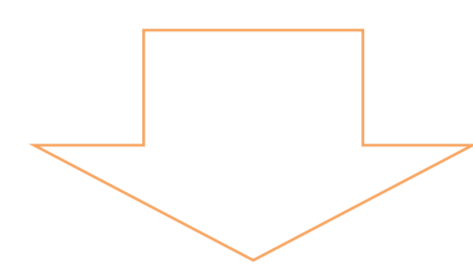
05 山梨の農業とその発展

発表者：氏名（所属）早川紗英(生命環境学部地域食物科学科)、松永杏理(生命環境学部地域食物科学科)

担当教員：氏名（所属）村松昇(生命環境学部地域食物科学科)

取り組みの概要

コロナ禍のため、実際の農家さんにお伺いすることができなかった



圃場実習を通して、農業の現状や問題点を考えることを目的とした活動

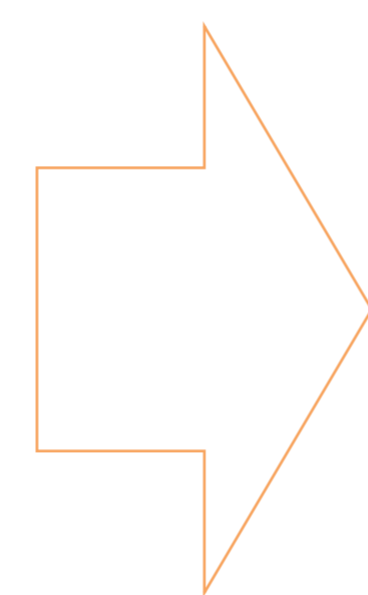
甲府キャンパス内の圃場における野菜栽培

- ▶夏野菜：ナス、ピーマン、トマト、トウモロコシ
- ▶秋冬野菜：ブロッコリー、アサツキ、ニンニク、小松菜、キャベツ、ハクサイ

課題解決の方法

野菜栽培に必要な作業を行う

1. 播種や苗植え
2. 水やり・施肥などの作業、観察
3. 収穫、実食



観察を踏まえて先生やインターネットから情報を収集し、適切な方法を探し実践する
 具体例：ブロッコリーの害虫対策として農薬を散布

成果

トマト

多くは美味しく食べられる状態で収穫することができた。一方で収穫時期が遅れたものは、裂果や虫や鳥の被害にあった。支柱設置が遅れ、枝が折れそうになった。



ブロッコリー

葉は、モンシロチョウの幼虫による食害を受けた。防虫ネットなどの物理的な防御を行わなかったため、定期的に手で取り除いた。花蕾は美味しく食べられる状態で収穫できた。



トウモロコシ

実が詰まったものからスカスカなものまであり、生育の差が大きかった。害虫被害により、実を食べ尽くされたものもあった。実が詰まったものは、新鮮でみずみずしかった。



ハクサイ

栽培当初は順調であった。しかし、植え付け時期が遅かったため結球するのに適した温度ではなく、生育しなかった。



まとめ

農作物が天候や土壌の状態、害虫などに影響を受けることを実際に観察することができた。特に定期的な観察と作業の重要性を学び、農業の大変さを理解した。山梨県でも農業者の減少や高齢化といった問題があり、人の手だけでなく機械やICTを利用した農業の必要を感じた。

家庭菜園よりも整った環境で季節ごとの野菜を作ること、農家の方々が苦労されていると思われることを体感することができた。成長の速度が読めず、収穫時期が遅れて食べることができない野菜もあった。